



国際紙パルプ商事株式会社  
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

2020年3月期

# 決算説明資料

---

2020年6月5日

国際紙パルプ商事株式会社

東証1部

**9274**



## 総括

- 国内は2月より取引に影響が出始める
- 海外は4月以降、本格的なマイナスの影響が発生
- 通期業績に対する影響額の合理的な算定は、現時点では困難
- 経費の見直し等、販管費の削減に注力

## 国内市場

- 国内は2月から各取引に影響が出始めていたが、緊急事態宣言の発令後は休校、外出自粛、リモートワーク拡大などを受け、チラシ用途を中心とした印刷用紙の需要が減少
- 一方、板紙やフィルム等一部の包装資材は食品向け等巣ごもり需要によって増加
- 当社は、幅広い業種・産業と取引を行っているため、影響度合いの合理的な算定が現時点では困難

## 海外市場

- 海外は影響前に成約していた取引も多く、1～3月は堅調となった
- 足元では取引契約の見送り・先送りや、各国における感染拡大防止対策による需要の減退が表面化し、4～6月にかけて本格的にマイナスの影響が出てくる見込み
- 第3四半期以降、7月に子会社化予定のAntalis（フランス）の業績が反映される



**I**

**2020年3月期 業績**

**II**

**2021年3月期 業績予想**

**III**

**当社概要と基本ビジネスモデル**

**IV**

**第2次中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）  
新たなビジネスモデルと具体的取り組み**

**（参考資料）**



I

2020年3月期 業績

---



## 2020年3月期：豪Spicers 買収が影響

- 売上高：古紙・パルプの市況下落による減収を、豪Spicers 買収効果で補い、微減に留まる
- 営業利益：古紙・パルプの減収による利益減を、物流費を始めとした国内の販管費減少でカバーするも、M&A費用の増加もあり、減益となる
- 当期純利益：基幹システム開発中止による減損損失約35億円計上の影響

(単位：百万円)	2019年3月期		2020年3月期				2020年3月期 期初計画
		売上比		売上比	前年同期比	増減率	
売上高	384,973	100.0%	381,397	100.0%	△3,576	△0.9%	387,000
売上総利益	22,064	5.7%	23,708	6.2%	+1,643	+7.4%	—
販売費及び 一般管理費	19,783	5.1%	21,857	5.7%	+2,073	+10.5%	—
営業利益	2,280	0.6%	1,850	0.5%	△429	△18.9%	2,000
経常利益	2,518	0.7%	2,194	0.6%	△323	△12.9%	2,100
親会社株主帰属 当期純利益	2,497	0.6%	1,232	0.3%	△1,265	△50.7%	2,200



## 2020年3月期 セグメント別概況

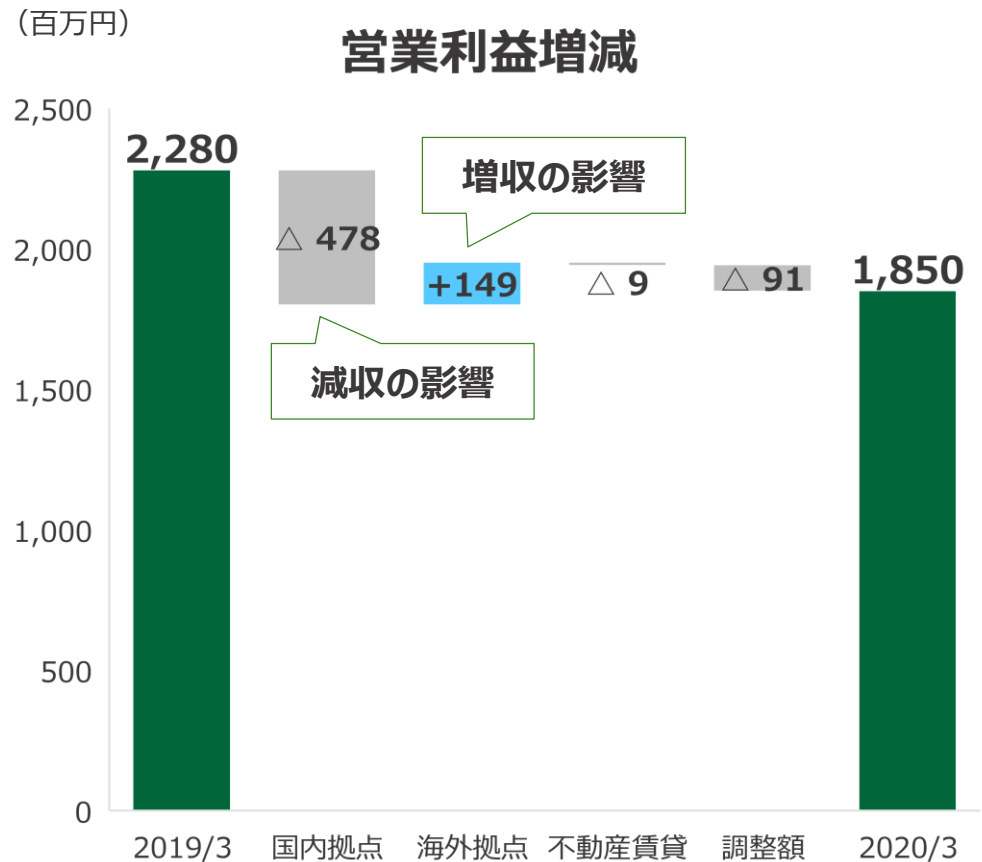
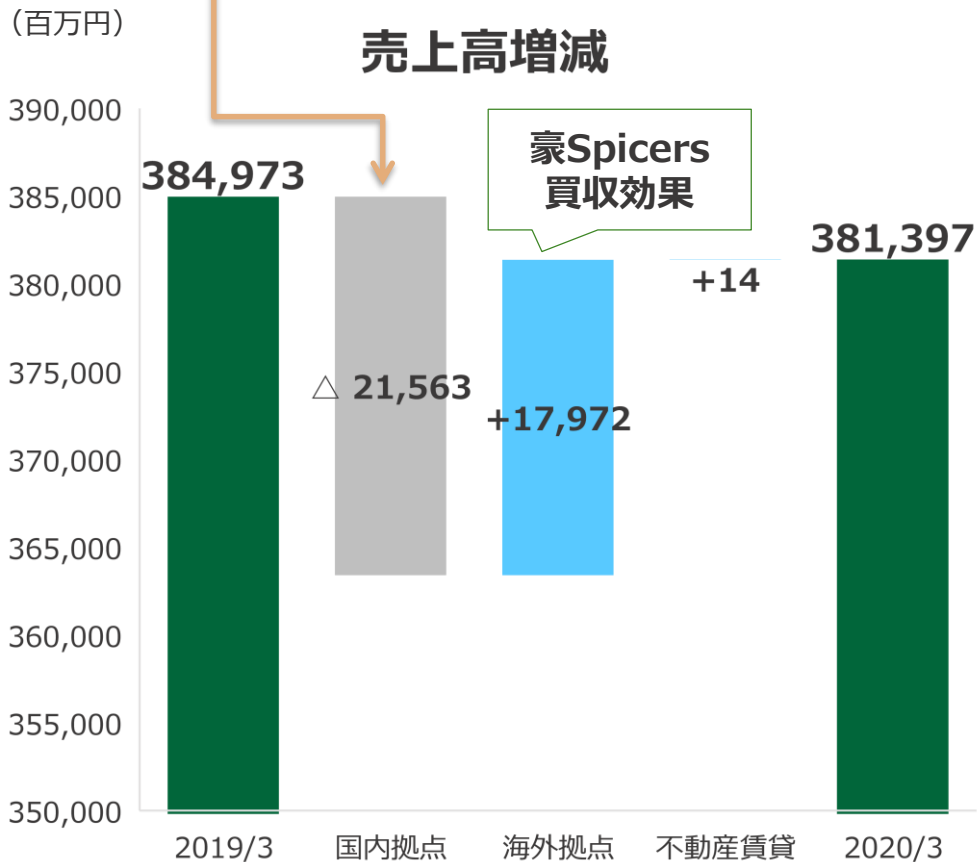
- 国内拠点紙パルプ等卸売事業は古紙・パルプ市況下落や紙の需要減により減収減益
- 海外拠点紙パルプ等卸売事業ではSpicersの買収効果が寄与し、増収増益
- 不動産賃貸事業は安定的に利益確保

(単位：百万円)		2019年3月期	2020年3月期		2020年3月期 (期初計画)	
			前年同期比	増減率		
国内拠点 紙パルプ等卸売事業	売上高	312,301	290,738	△21,563	△6.9%	312,900
	セグメント利益	4,567	4,088	△478	△10.5%	3,900
	利益率	1.5%	1.4%	△0.1P	—	1.2%
海外拠点 紙パルプ等卸売事業	売上高	71,474	89,446	+17,972	+25.1%	72,900
	セグメント利益	30	179	+149	+495.0%	100
	利益率	0.04%	0.2%	+0.2P	—	0.1%
不動産賃貸事業	売上高	1,197	1,212	+14	+1.2%	1,200
	セグメント利益	599	590	△9	△1.5%	600
	利益率	50.1%	48.7%	△1.4P	—	50.0%
合計	売上高	384,973	381,397	△3,576	△0.9%	387,000
	セグメント利益	5,197	4,858	△338	△6.5%	4,600
	調整額	△2,916	△3,007	△91	—	△2,600
	営業利益	2,280	1,850	△429	△18.9%	2,000
	利益率	0.6%	0.5%	△0.1P	—	0.5%



# セグメント別売上高・セグメント別営業利益増減要因

品種	コメント
紙	雑誌電子化、チラシ・カタログ等紙媒体離れ続く
板紙	米中貿易摩擦もあり輸出減少、白板紙の販売も不調
古紙	需要減、市況下落
パルプ	市況下落





2014年4月～社内基幹システムの老朽化に伴う新システム開発開始

想定投資額：約32億円、 想定期間：5年（当初計画）

- 目的：
- ①国内事業の業務効率化
  - ②グローバル対応
  - ③グループ経営管理の強化

開発内容の不適合など諸般の事情から、  
現在開発中の社内基幹システムによる対応では不十分であるとの判断



**現基幹システムの開発を断念・中止**

開発中の当該社内基幹システム（固定資産）で減損損失約35億円を計上（2020年3月期）

（今後の対応）

既存システムの維持・更新対応

今回の不適合原因を踏まえて、新システムを再構築予定





Ⅱ

2021年3月期 業績予想

---



- **現時点では先行きが不透明**

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大と終息時期見通しが不透明  
当社主力事業である紙パルプ等卸売事業に対するマイナス要因の拡大  
パッケージ事業・化成品事業は堅調

- **2021年3月期連結業績の見通しは、公表を見送り**

国内、海外ともに、幅広い業種・産業との関係があるため、  
今期見通しを合理的に算出する情報が不十分であり算定が困難。  
且つ、子会社化予定のAntalis（仏）（後述）の業績加算金額が大きいことによる

- **業績予想算定が可能になった段階で、速やかに公表へ**



- **2021年3月期：前期同様の期末配当10円を予定**

- 配当性向30%以上を目標として配当を実施する方針

- **自社株買いなど資本政策について**

- 2020年2月に自社株買いを実施（1,000,000株取得済み）
- 2020年5月に追加で自社株買いを発表  
（上限：400,000株もしくは148,000,000円）

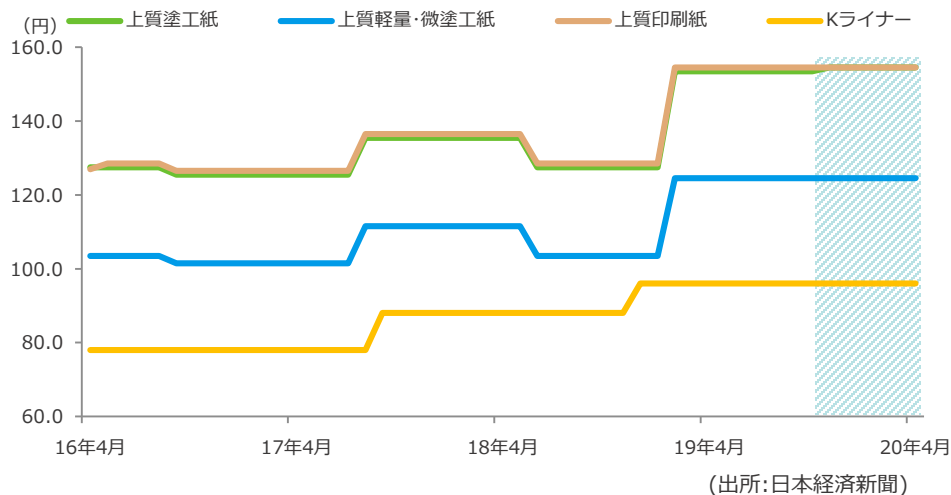
**今後は投資と株主還元のバランスを取り、企業価値向上を図る**

# 国内事業環境（ご参考）：紙市況は高止まり、古紙・パルプ価格は下落止まらず



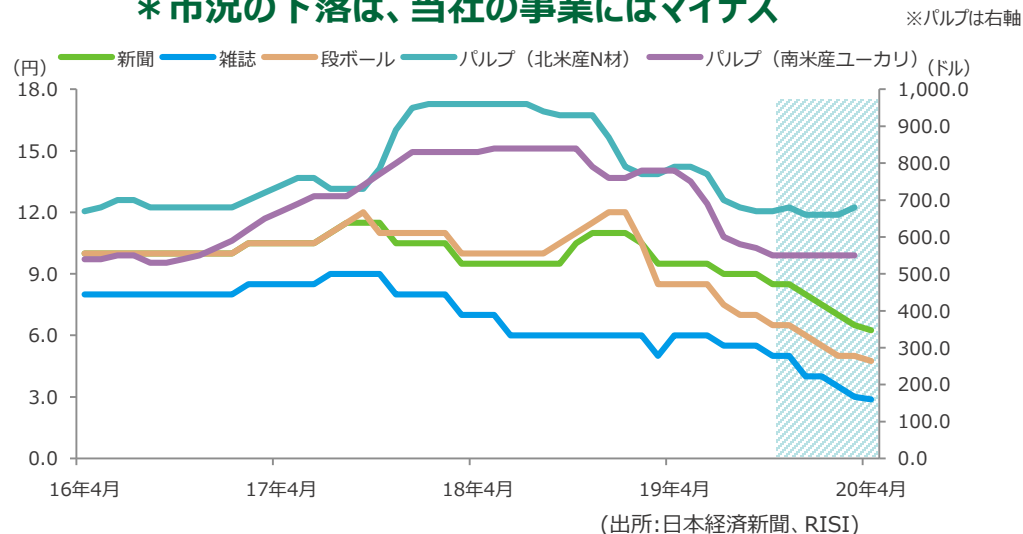
## 市況価格

**\* 市況の高止まりは、当社の事業にはプラス**

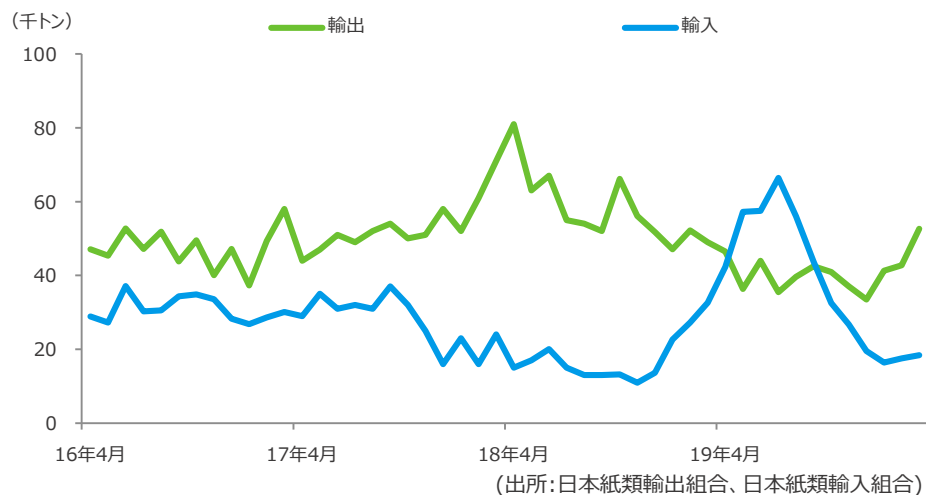


## 古紙・パルプ価格

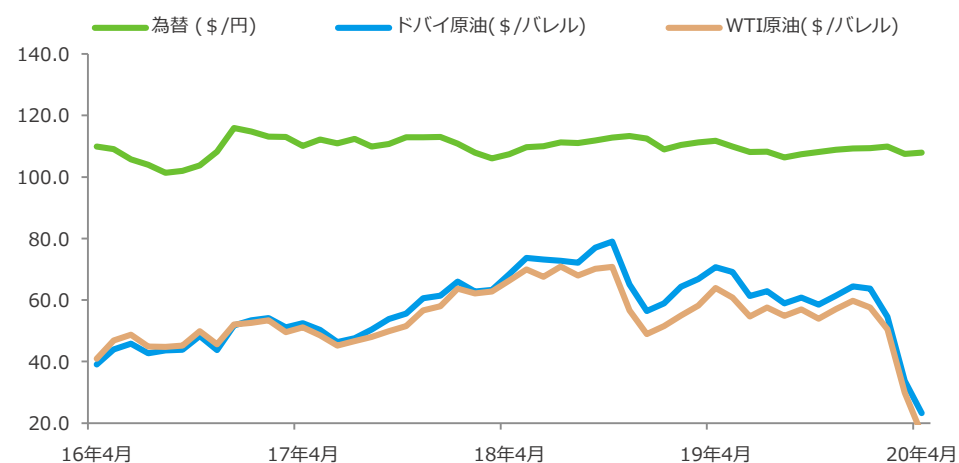
**\* 市況の下落は、当社の事業にはマイナス**



## 塗工紙輸出入



## 為替・原油価格





Ⅲ

当社概要と基本ビジネスモデル

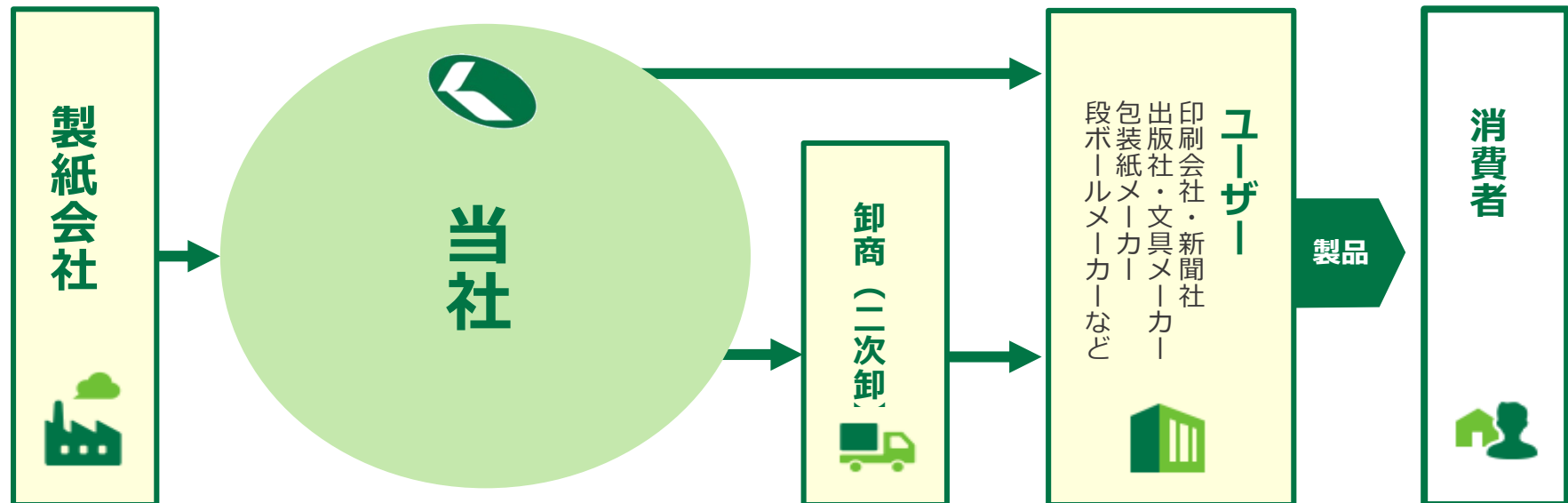
---



# 世界有数の独立系紙パルプ商社

- ① 売上高：日本国内紙商社第2位 世界第4位（当社調べ）
- ② 独立系共通代理店：（紙一次流通は主に製紙会社系列、総合商社系列、独立系共通代理店に分類される）
- ③ ハイブリッドな海外ネットワーク：長年培ってきた紙の三国間貿易を含むトレード事業と、現地有力紙商のM&Aによるハイブリッドな海外展開
- ④ 豊富な取扱商品：印刷・情報用紙、段ボール原紙、白板紙、フィルム・化成品、デジタル用紙、粘着用シール・ラベル用紙、製紙用原料（パルプ・古紙）、環境関連商品等、幅広い商品群をカバー

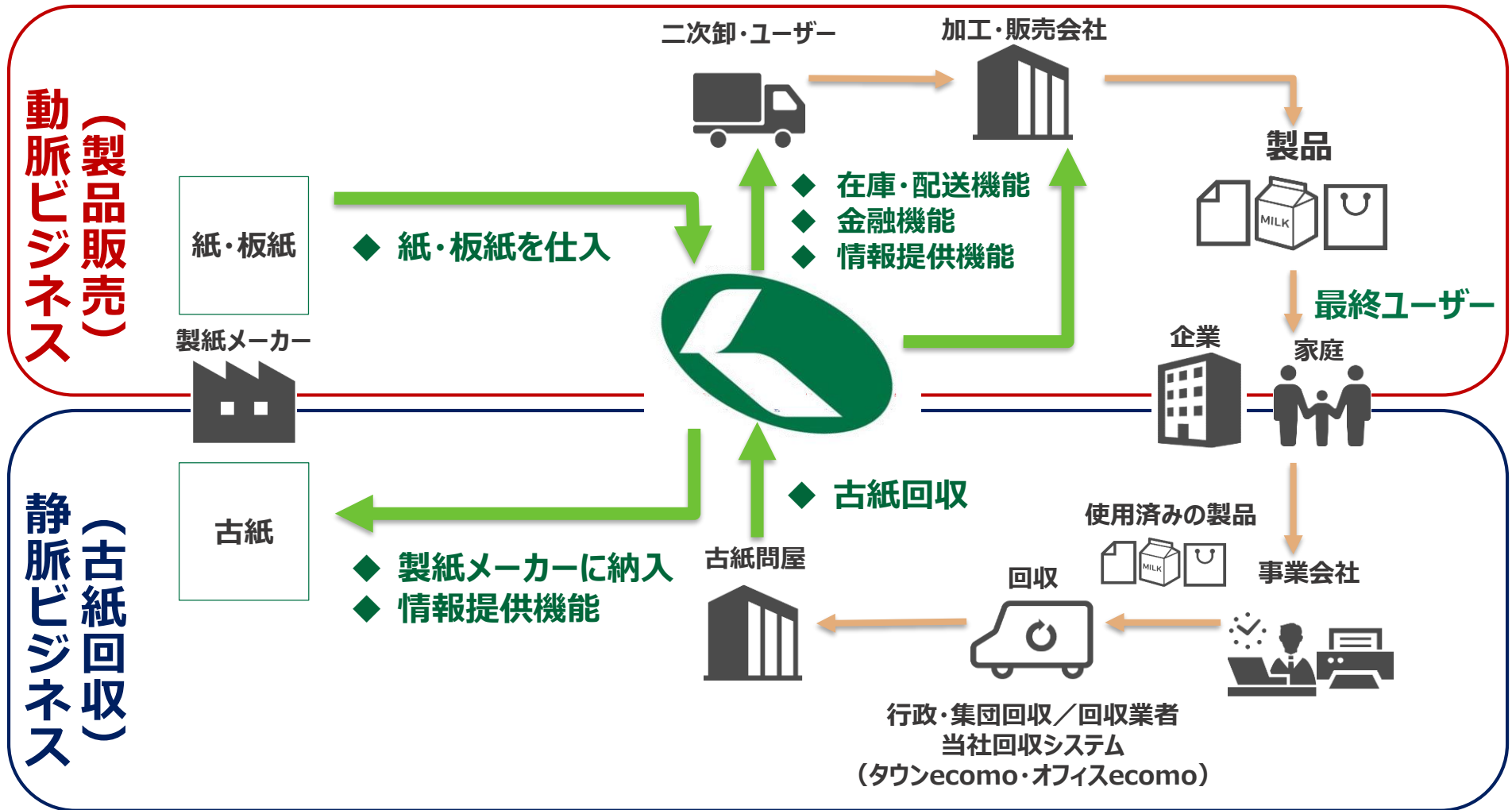
## 国内における当社の基本ビジネスモデル





## 日本の製紙業界は、古紙の再資源化によるリサイクル産業

(2018年度の古紙の利用率 紙：37.3%、板紙：93.4%\*)



\* 出所：古紙再生促進センター



IV

**第2次中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）  
新たなビジネスモデルへの具体的取り組み**

---





# 2022年3月期 売上高4,300億円、営業利益30億円

(2019年12月5日公表)

為替：米ドル109.00円

(2020年3月期実績：売上高3,813億円、営業利益18.5億円)

## 国内基本戦略

1. 既存事業の強化  
紙・板紙卸売事業、パルプ事業の収益体質強化
2. 循環型ビジネスの強化  
製紙原料事業の拡大  
(パルプ製品の多様化と古紙のリサイクル)
3. ソリューション事業の拡大  
バイオマス発電所運転支援システムの展開

## 海外への展開

1. M&Aによる規模の追求  
海外紙卸商の買収（豪・仏）など
2. グローバルネットワークを活かした展開  
ハイブリッド型ビジネスの展開

+

+

不動産賃貸事業での安定収入の確保

+

## 新事業の展開

- ・ グラフィックコミュニケーション事業  
(情報メディア・教育・文化分野)
- ・ パッケージソリューション事業 (環境・包装事業)
- ・ ビジュアルコミュニケーション事業 (視覚伝達市場)



## 国内市場

### 成熟市場だがECなど新分野に活路あり

- 市場の成熟化で紙パルプ市場は減速
- 電子媒体シフトによるグラフィック用紙の需要縮小
- EC市場の伸長に伴うパッケージング用紙の需要増加



## 海外市場

### 成長市場だが先進国と新興国でニーズが異なる

- 新興国中心に家庭紙、衛生紙市場の拡大でパルプ需要が増大
- 先進諸国ではグラフィック用途の減速の一方でパッケージ用途、ビジュアル・コミュニケーション（サイン&ディスプレイ等）用途が拡大





- 内部経営資源（オーガニック）による成長に加え、外部経営資源の獲得（インオーガニック）による成長を取り込み、持続的な成長へ。

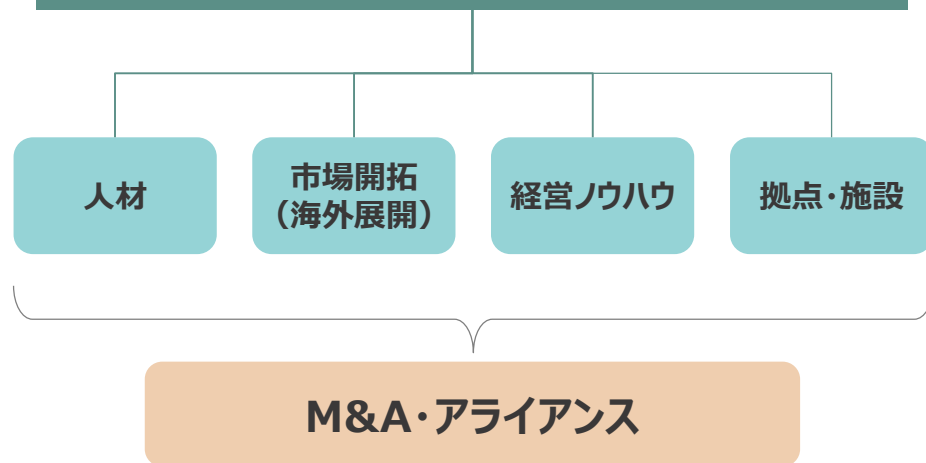
## オーガニック・グロース

＝循環型ビジネスモデルの拡大

1. 紙・板紙卸売事業のシェア拡大・経費削減・利益最大化
2. パルプ事業の強化
3. 古紙事業と製品販売の両立による循環型事業の更なる拡大
4. ソリューション事業の拡大

## インオーガニック・グロース

＝外部経営資源の獲得による事業領域の拡大



持続的な成長へ



- 豪州第2位の紙商、2019年7月に完全子会社化
- 商業印刷用紙・包装資材・紙関連製品等の卸売事業を手掛けるリーディングカンパニー
- ビジュアルコミュニケーション事業に強味
- 従業員数約300人（2020年3月末）
- 拠点：オーストラリア8都市、ニュージーランド4都市

## Direct Paper

- 豪州の有力紙商、2020年2月にSpicers Limitedの子会社であるSpicers Australia Pty Ltdが事業譲受
- 商業印刷用紙、包装資材、食品用包装材等の卸売事業
- パッケージング事業に強味
- 従業員数約50人（2020年3月末）
- 拠点：オーストラリア3都市



**ANZ市場の有力紙商をM&Aで獲得**  
成長が見込まれるパッケージング事業、ビジュアルコミュニケーション事業の拡大

### 拠点図





antalis<sup>EM</sup>  
Just ask Antalis

仏Antalis社

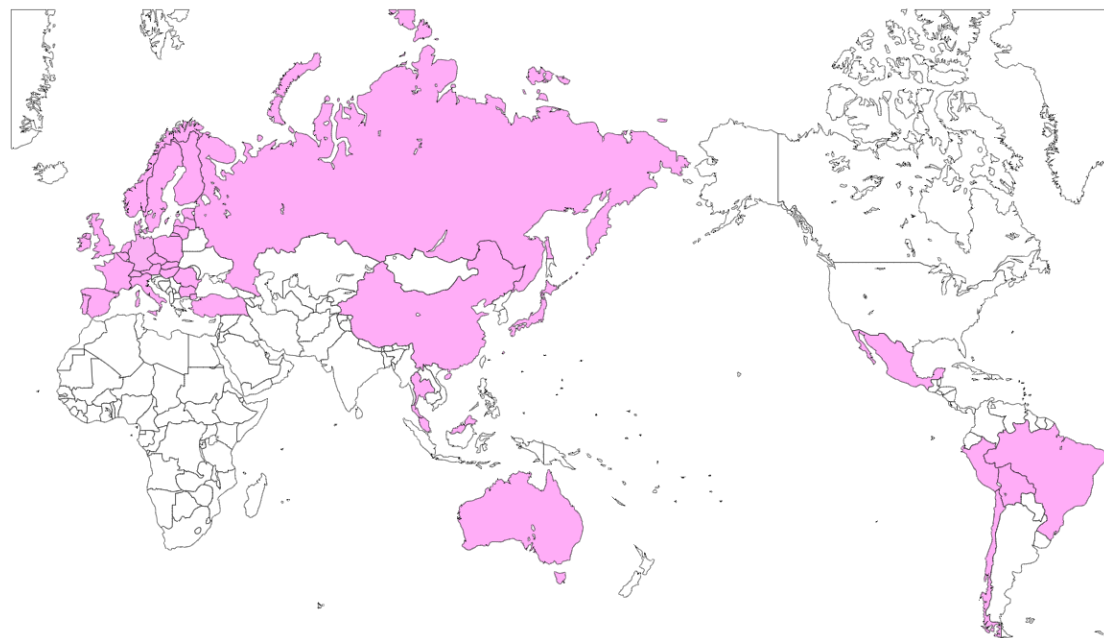
本社：パリ

- 売上高（2019年12月期）：約**2,500**億円（約21億ユーロ、@118円）
- 連結従業員数約**4,700**人（2019年12月末）
- 世界**39**か国で紙・紙関連製品等の卸売事業を展開、販売先約11.5万社
- ポストグラフィックペーパーとして成長力高い**パッケージング事業**や**ビジュアル・コミュニケーション事業**（サイン&ディスプレイ等）に強味

（出所：Antalis社 ホームページ）

- 目的：**海外事業の拡大と事業ポートフォリオの多角化**

### 事業展開地域

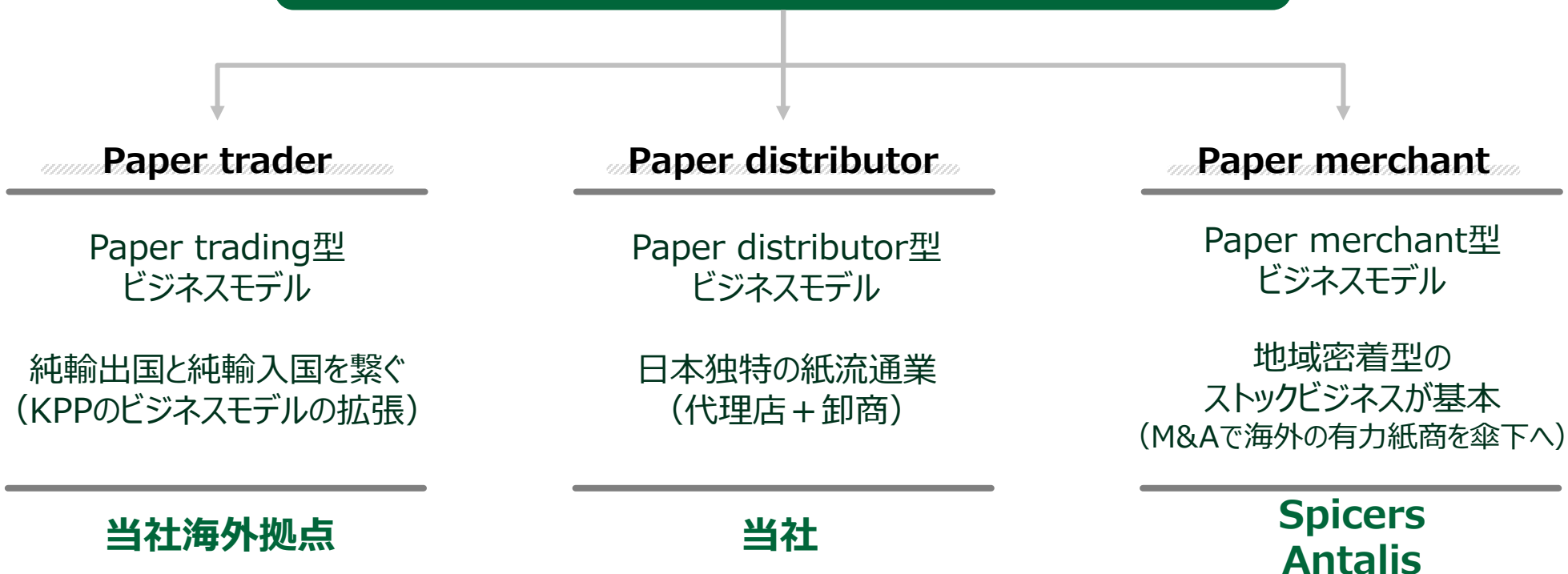




- 従来の当社グループのビジネスモデル（Paper distributor型 + Paper trading型）に豪Spicers社や仏Antalis社（子会社化予定）が展開するPaper merchant（紙商）型ビジネスモデルが加わることでハイブリッド型ビジネスモデルを実現

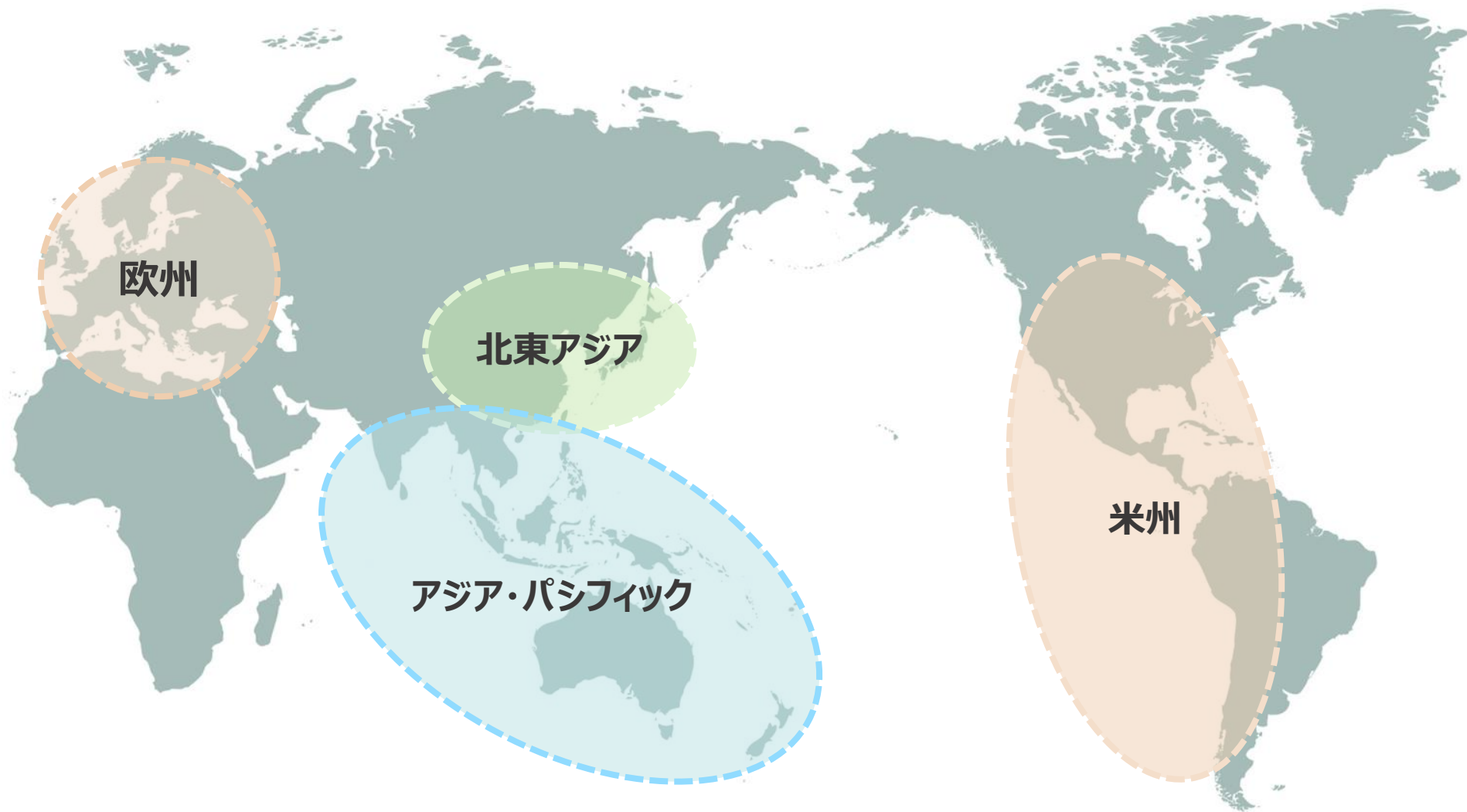
⇒各地域に適したビジネスモデルを展開することで、収益性・効率性を最大化

## ハイブリッド型ビジネスモデル





## KPPグループの地域戦略（Antalis買収後）





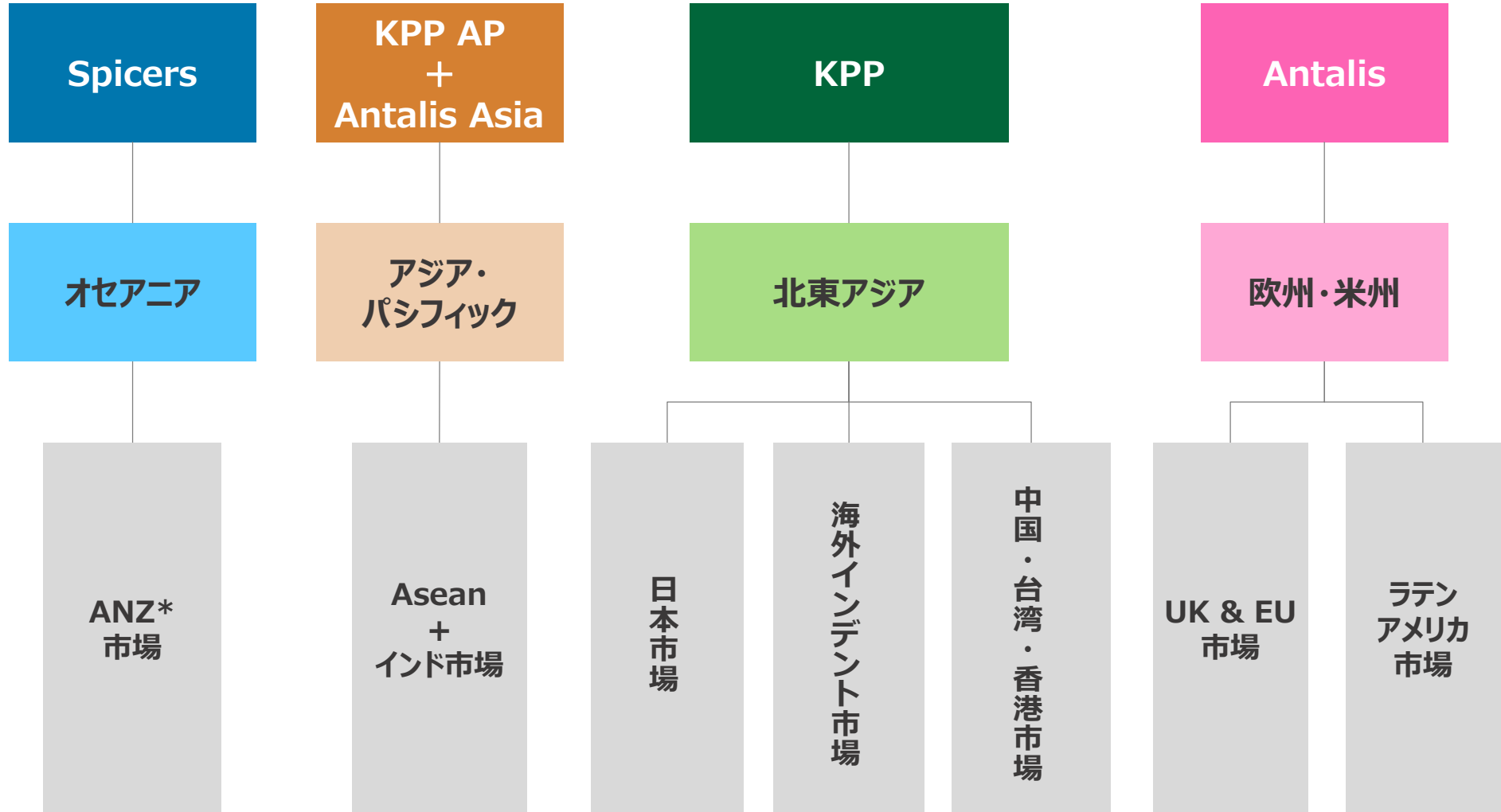
## 地域別・事業セグメント別 マトリックス図

事業セグメント 地域	ペーパー事業	製紙原料事業 (パルプ・古紙)	パッケージ事業	サイネージ& ビジュアルコミュニケーション 事業	化成品& 機械販売事業他
北東アジア	○	○			○
アジア・パシフィック	○	○	○	○	○
欧州	○		○	○	
米州	○	○	○		

○は事業展開中  
空欄についても今後事業展開予定

**世界の主要地域を多種多様な事業（製品）でカバー**

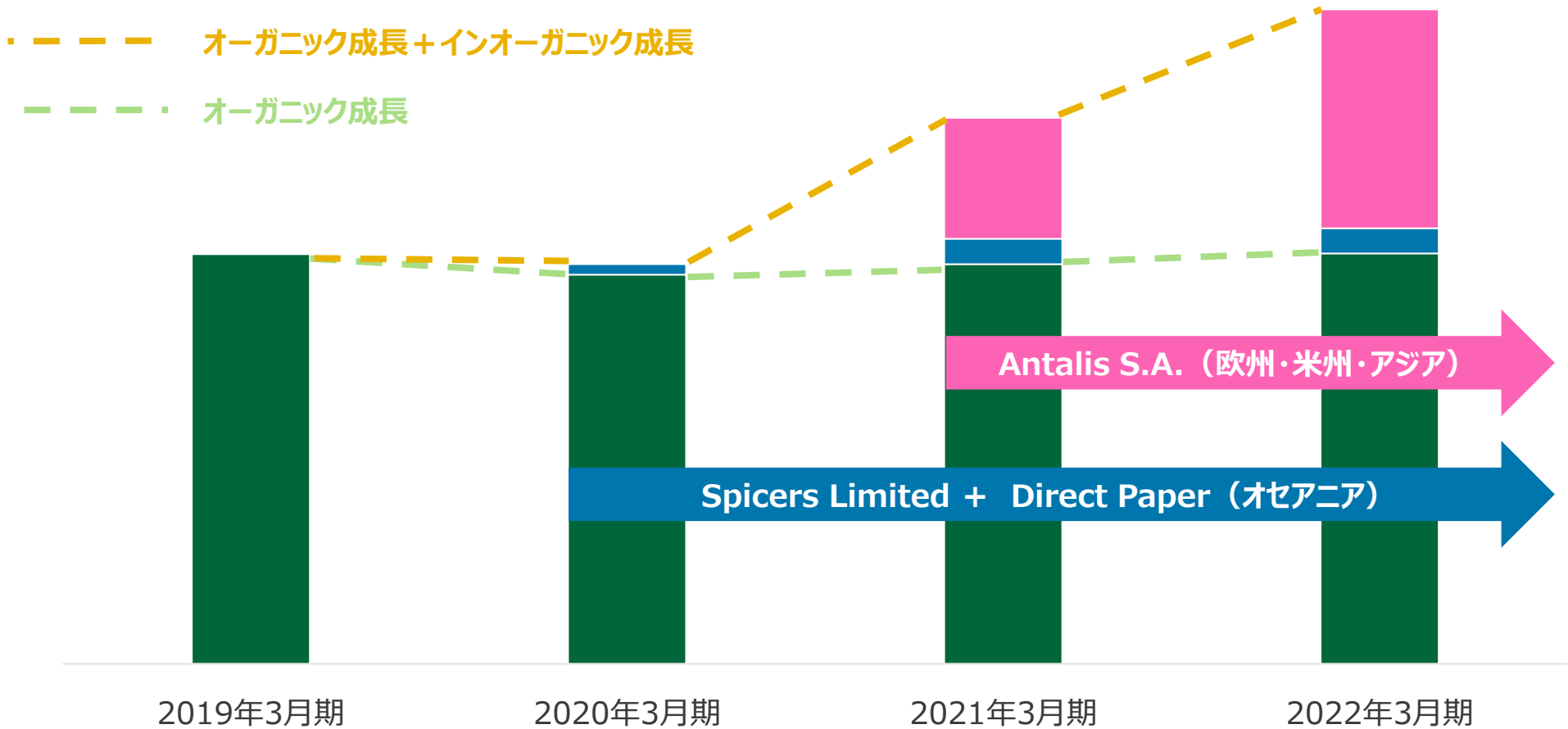




\*ANZ・・・オーストラリア・ニュージーランド



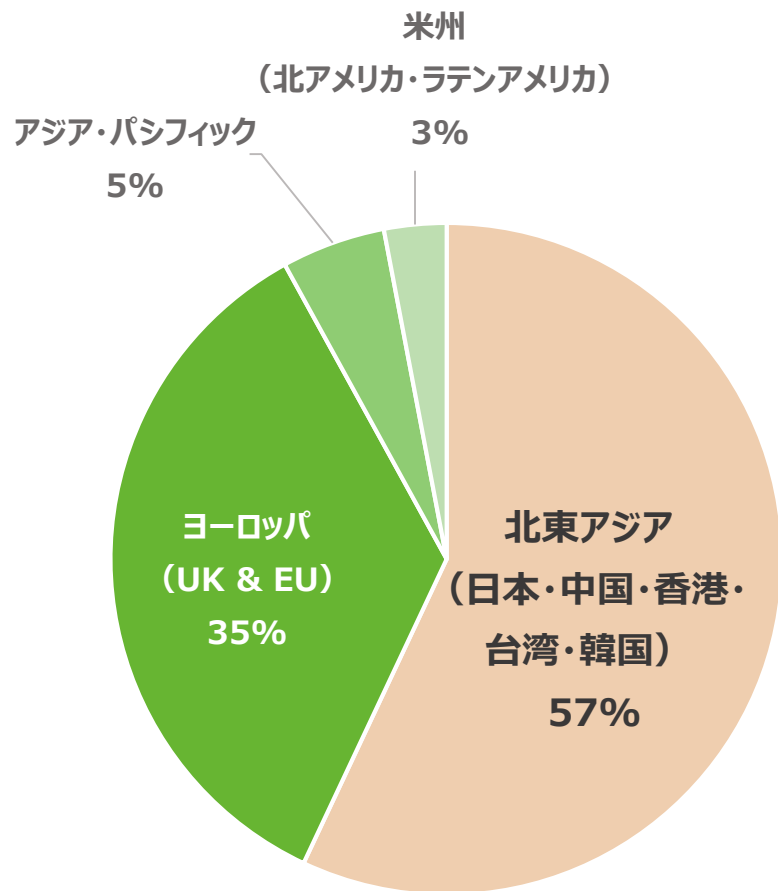
## 売上高成長イメージ



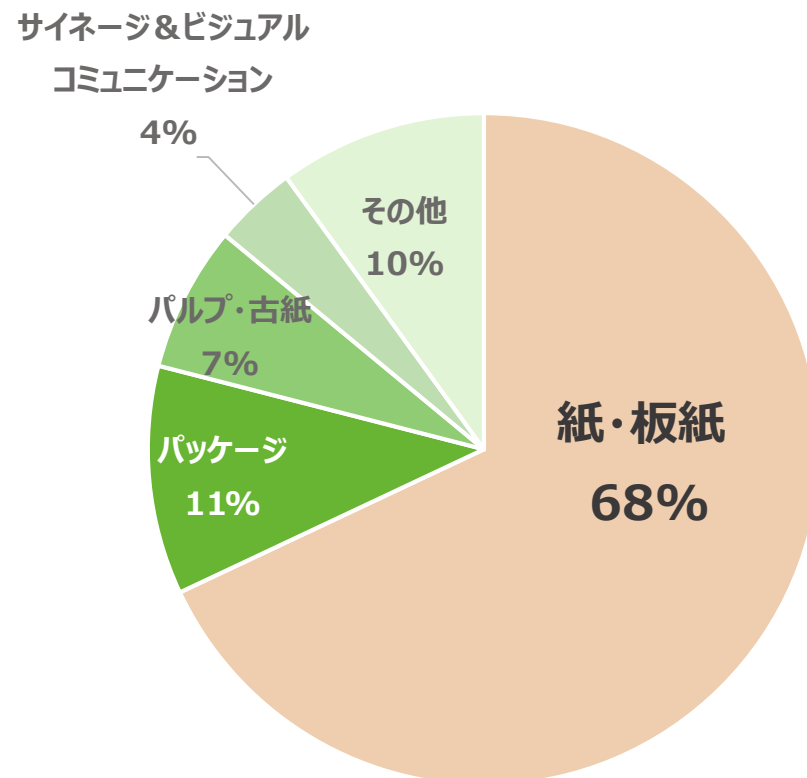
インオーガニック成長で飛躍的に成長、競争力の強化



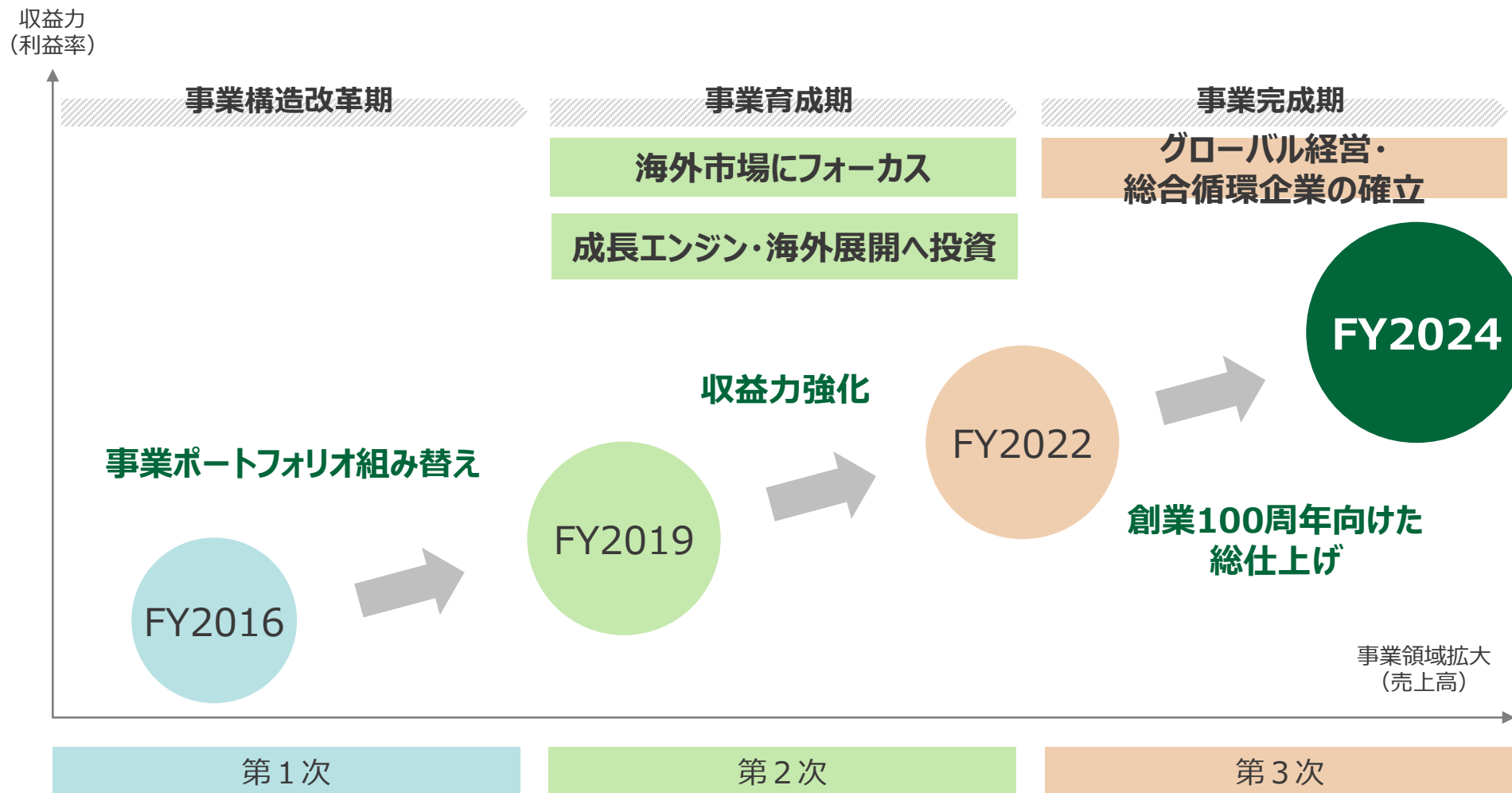
## 地域別



## 品種別



# 中長期成長イメージ：創業100周年に向けた成長軌道



## 中期経営計画（第1次～第3次）

株主還元：目標配当性向 30%以上



## SDGs

## 取り組み

## 実績・成果



- ・バイオマス発電事業会社「バイオマスパワーテクノロジーズ」への出資。
- ・バイオマス発電所運転支援システム「BMecomo」の開発

- ・松阪木質バイオマス発電所稼働
- ・BMecomo実証運転開始



- ・原紙、紙製品の販売だけでなく、全国に広がるネットワークを通じて古紙を回収し、製紙会社に再生原料として供給

- ・2019年度古紙回収量 1,048千t



- ・海洋プラスチック汚染問題の解決に向けて、若手社員を中心に情報交換・開発に取り組む「Green Biz Project」を組織横断で立ち上げ
- ・環境配慮型商品「Green Products」の開発・販売

- ・定期ミーティングの開催
- ・紙ストローや紙製クリアホルダーなどの開発商品の実用採用



- ・森林認証(COC認証)の取得、認証紙・製品の拡販
- ・健全な森林の育成と保全、人間と自然の共生に取り組む一般財団法人「C.Wニコル・アフアの森財団」とのオフィシャルスポンサー契約

- ・森林認証紙の販売 616千t
- ・森林認証パルプの販売 149千t
- ・第7回KPP総合展示会にてC.W.ニコル・アフアの森財団の活動による森の再生活動に関する講演会を開催
- ・同財団と震災復興プロジェクト推進、宮城県にて紙漉き教室の共催



## 世界共通の課題 海洋プラスチック汚染問題

2019年 G20大阪サミット「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の共有  
「マリーン・イニシアティブ」の発足



国際紙パルプ商事株式会社  
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

### 「Green Biz Project」

若手社員を中心に部門横断型に立ち上げ、  
多様な観点から海洋プラスチック汚染問題の  
解決に向けて素材・製品の開発に取り組む



### 「Green Products」

環境配慮型素材や  
製品の開発・販売

ECサイトに専門のページ  
を開設



商品化例：紙製クリアファイル

### 第7回「KPP総合展示会」開催

環境配慮素材・製品・取組みをご紹介



2019年11月 会場の様子 試作品の紙ハンガー・紙製ワタ

### 連携協力

CLOMA（クリーン・オーシャン・  
マテリアル・アライアンス）  
\* 経産省

プラスチック・スマート・フォーラム  
\* 環境省

課題解決の取り組みを発信



# ecommo Closed Recycle Service

エコモ クローズドリサイクルサービス

- 当社リサイクルブランドである「ecommo」シリーズの新たな取り組み
- クローズドリサイクルの新たな統合プラットフォーム
- 古紙の回収・納入データを一元管理（＝可視化）

特設サイト：<https://ecommo.closedrecycle.jp/>



お客様に自社のリサイクルのリアルタイムな可視化や利便性  
といった付加価値を提供することで収益力の強化へ



**BM ecomomo**  
Biomass Meister

- 当社発案のバイオマス発電所運転支援システム
- 2018年9月に開発を発表
- 2019年10月より実証運転を開始

特設サイト：<https://bmecomomo.com/>

- 実証運転の間にユーザーからのフィードバックを受け、機能を増強
- システムを**BMecomomo**と称し、2020年4月より本格稼働

## BMecomomoの特徴

- ① 遠隔監視による情報共有・可視化
- ② 設備の保全
- ③ 燃焼の効率化（運転ノウハウの継承）

収益・コストの最適化

運転技術の最適化・  
合理化

バイオマス発電所の収益最大化





国際紙パルプ商事株式会社  
KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

## 参考資料

---



# 会社概要（2020年3月末）

## ● 創立95年の紙卸売代理店

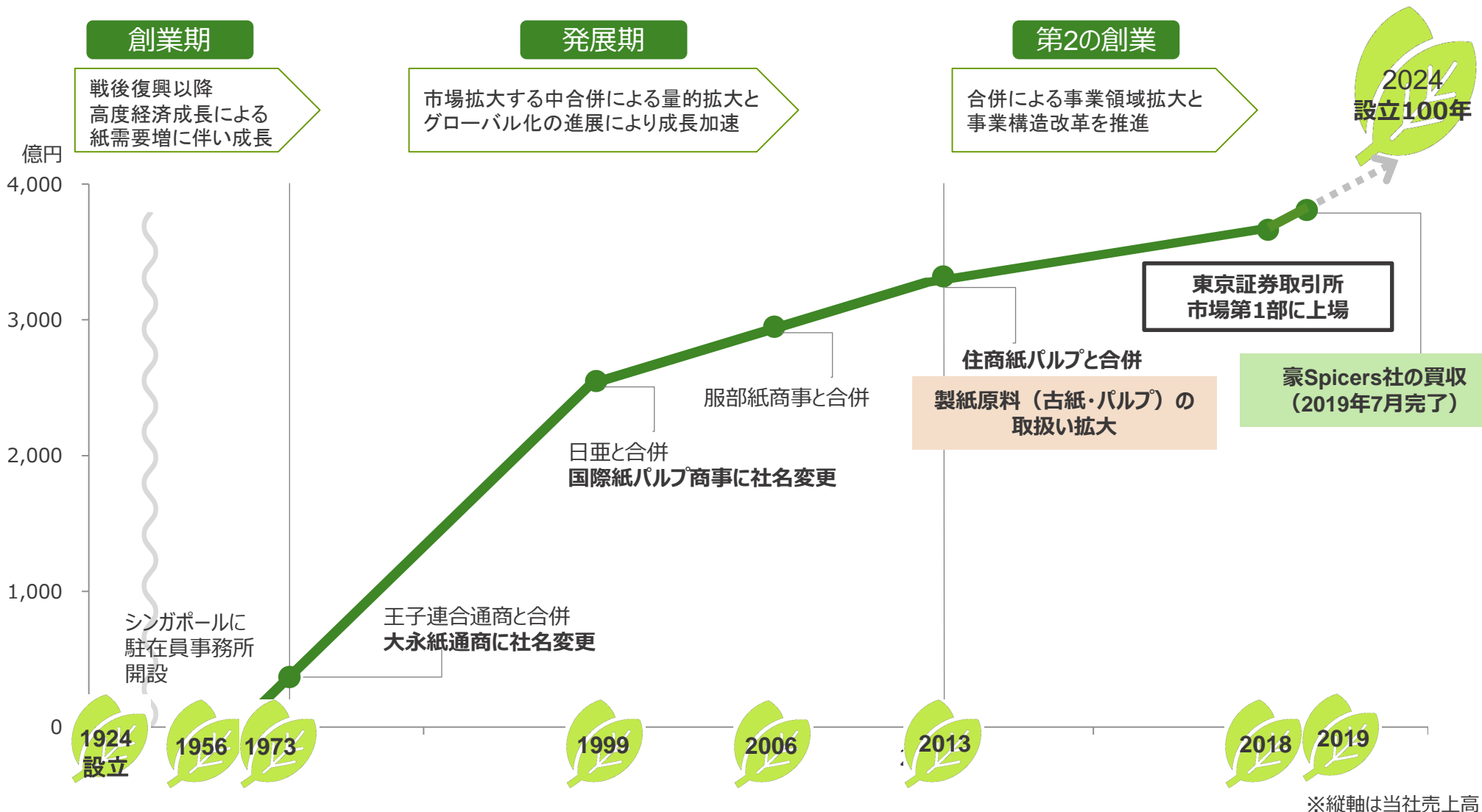
会 社 名	国際紙パルプ商事株式会社
設 立	1924年11月（大正13年）
代 表 者	代表取締役 社長執行役員CEO 田辺 円
本社所在地	東京都中央区明石町6-24
資 本 金	4,723百万円
従 業 員 数	1,288名（連結）

大 株 主 *	王子ホールディングス株式会社	17.1%
	日本製紙株式会社	9.1%
	株式会社みずほ銀行	3.8%
	国際紙パルプ商事従業員持株会	3.6%
	株式会社三菱UFJ銀行	3.5%
	株式会社三井住友銀行	3.5%
	農林中央金庫	3.5%
	北越コーポレーション株式会社	3.4%
	三菱UFJ信託銀行株式会社	2.9%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2.8%	

\*持株比率は自己株式を控除して計算

### 当社グループ（子会社29社・関連会社11社）の主な関係会社

国内拠点紙パルプ等卸売事業		海外拠点紙パルプ等卸売事業	
<b>連結子会社</b>	<b>持分法適用関連会社</b>	<b>連結子会社</b>	<b>持分法適用関連会社</b>
鳴海屋紙商事（株）	（株）グリーン藤川	Spicers Limited	MISSION SKY GROUP LIMITED
大同紙販売（株）	グリーンリメイク（株）	DaiEi Papers (USA) Corp.	成都新国富包装材料有限公司
桔梗屋紙商事（株）		慶真紙業貿易（上海）有限公司	
岡山紙商事（株）		DaiEi Papers (H.K.) Limited	
九州紙商事（株）		DaiEi Papers Korea Co.,Ltd.	
むさし野紙業（株）		DAIEI PAPERS TRADING INDIA PVT.LTD.	
（株）グリーン山愛		DAIEI PAPERS (S) PTE.LTD.	
KPPロジスティックス（株）		DAIEI AUSTRALASIA PTY.LTD.	
		KPP ASIA-PACIFIC PTE. LTD.	





- 「経営理念」「グループ企業行動指標」「経営ビジョン」の3層から形成され、グループ社員全員が共有し、共通の価値観としてすべての活動の基本となる考え方。

## K P P G R O U P W A Y

### 当社グループの存在意義・ミッション

- グローバル経営の充実と持続的な成長を目指します。
- 社員とその家族の幸福を追求するとともに株主・顧客・取引先・地域社会より信頼される企業を目指します。
- 循環型社会の実現と教育・文化・産業の振興に広く貢献します。

経営理念

### 当社グループが社会的責任を果たすための行動指標

- 「法令等の遵守」
- 「公正・自由・透明な事業活動」
- 「社会や取引先からの信頼の獲得」
- 「社会貢献活動の推進」
- 「積極的な企業情報の開示」
- 「国際社会との共生」
- 「職場環境の充実」
- 「自然環境との調和」
- 「反社会的勢力との関係遮断」

### 当社グループの描く経営ビジョン

#### Globalization

グローバルにビジネスフィールドを展開する

#### Innovation

“創紙力”で未来を開拓する

#### Function

提案力・企画力で付加価値を創造する

#### Trust

ステークホルダーの信頼に応える

- +1 当社グループは、この経営ビジョンのひとつひとつに環境への取組みを+1として加え、環境配慮型商品の提案・古紙回収・再資源化等を通じ『循環型社会』の実現を目指します。

グループ企業行動指標

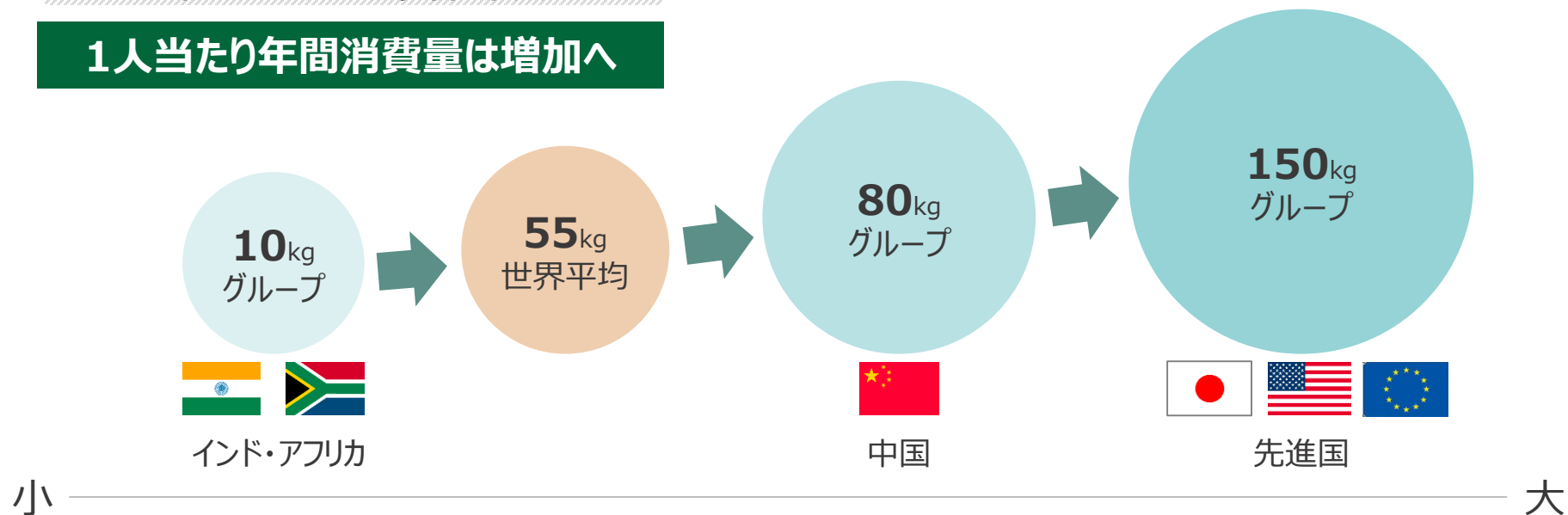
経営ビジョン

G I F T + 1



## 紙・板紙の一人当たり年間消費量

1人当たり年間消費量は増加へ



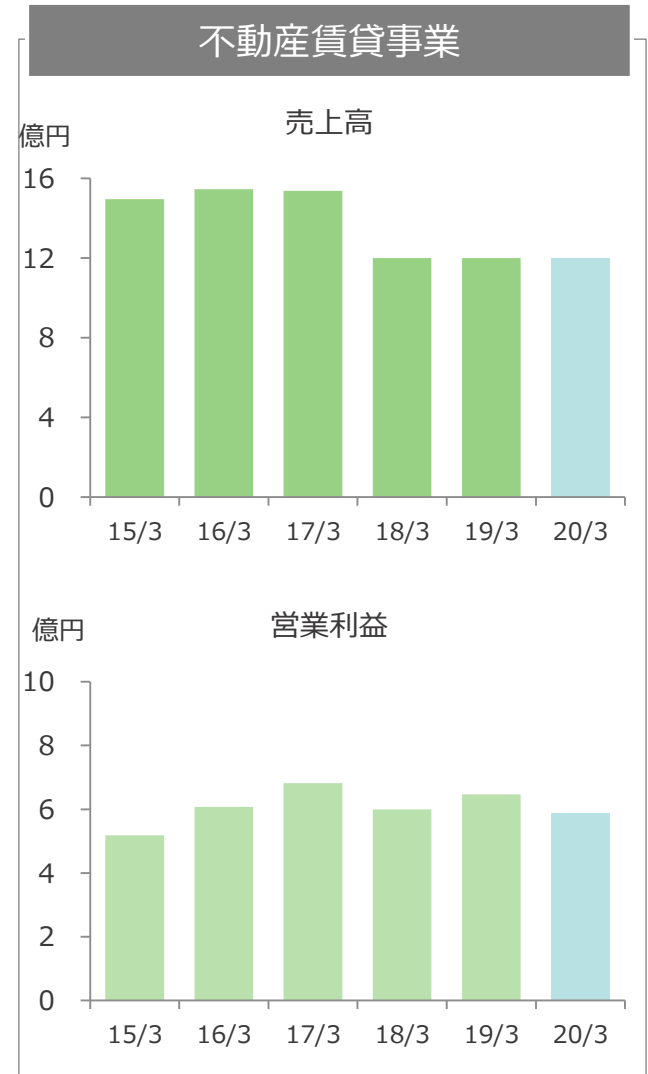
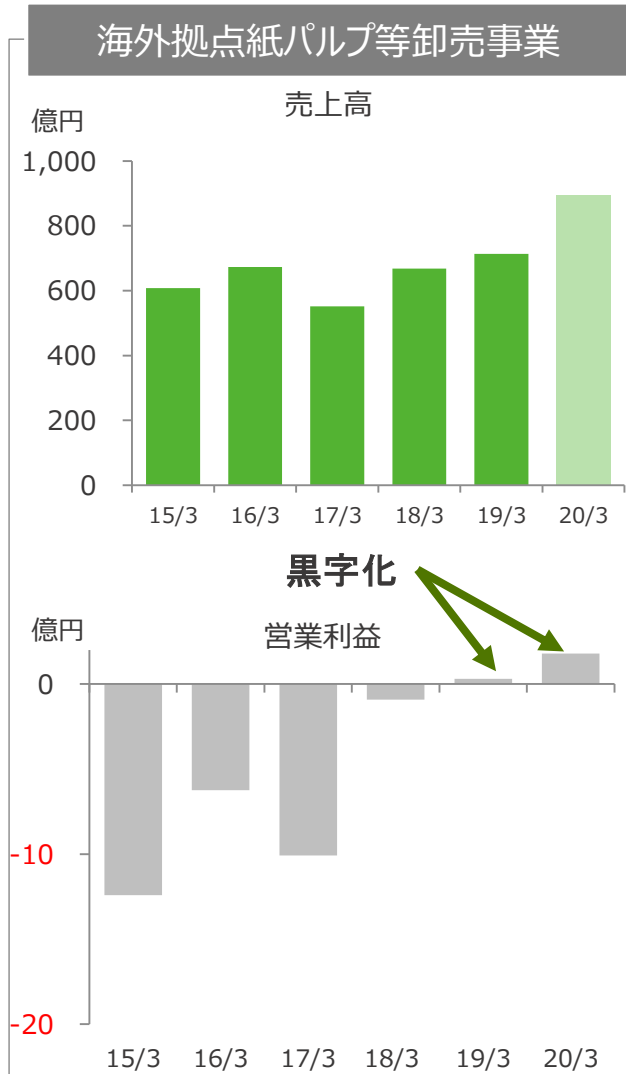
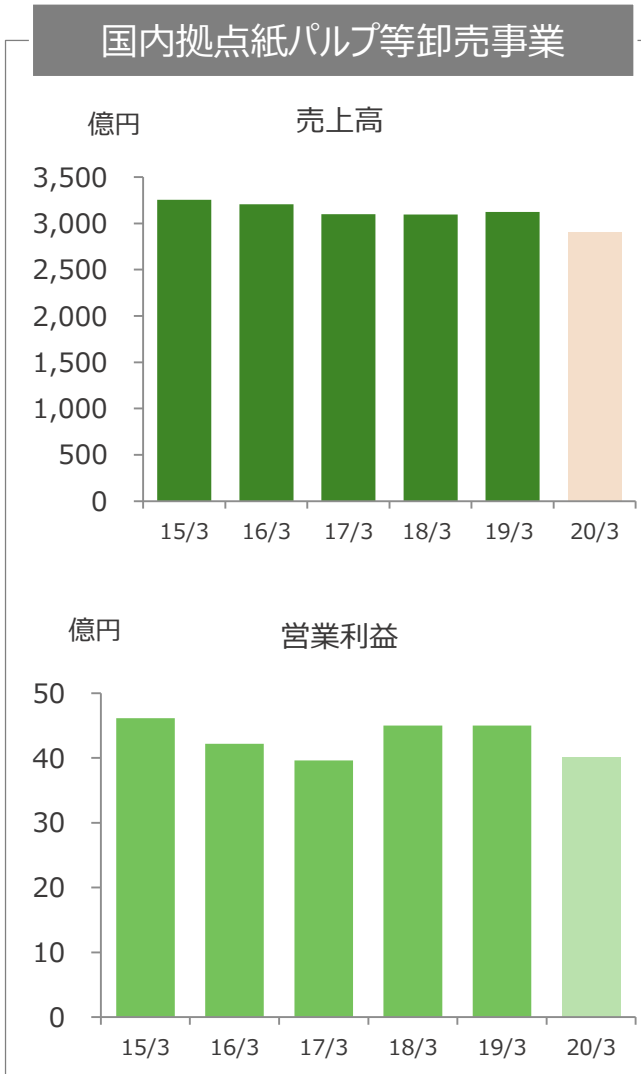
### 取り巻く環境

- 長期的には10kgグループも世界平均まで上がると予想
- グラフィック・ペーパー市場は減少するも、パッケージ市場は拡大

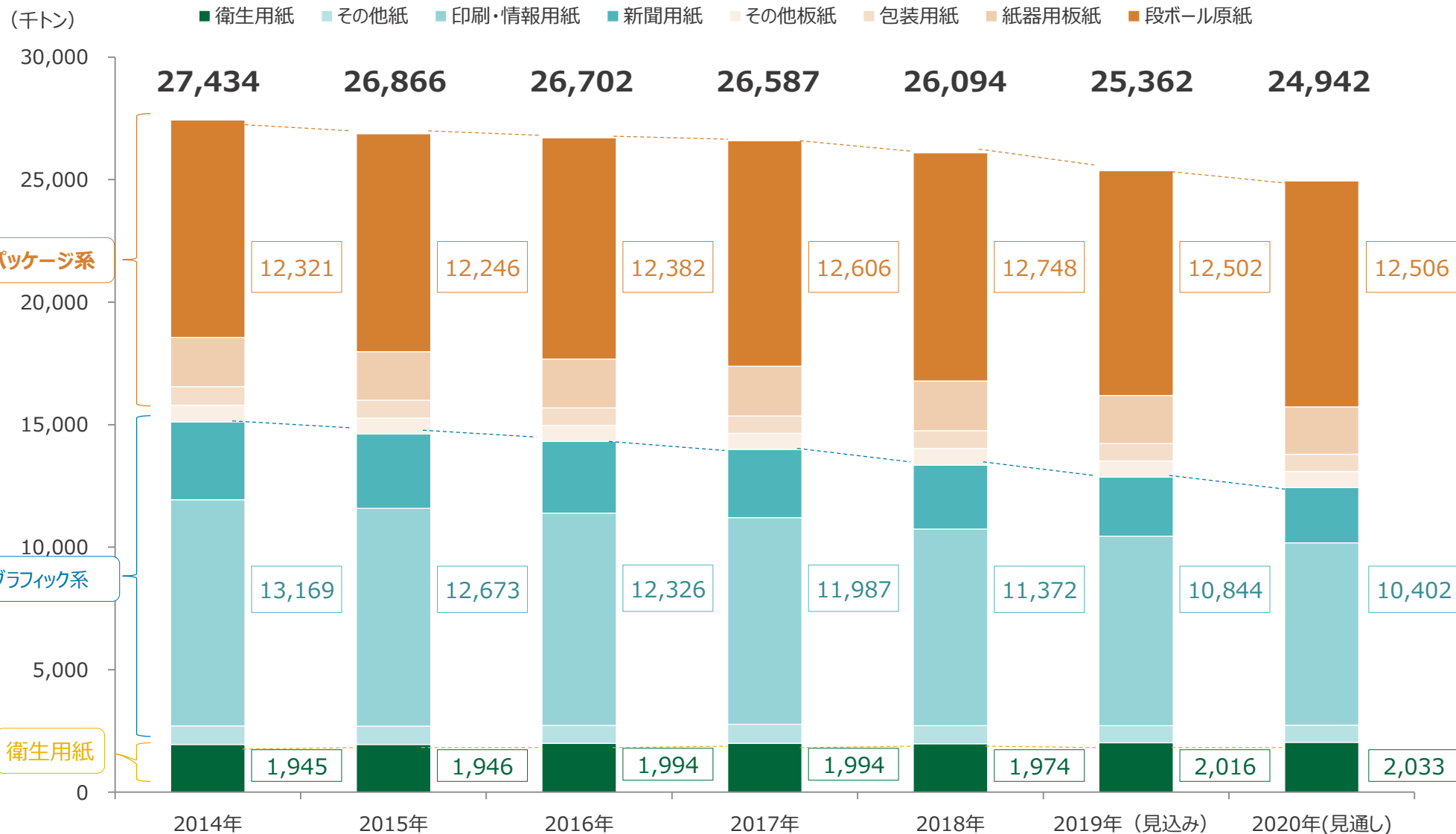


# セグメント別業績動向

## ● 海外事業の黒字転換 不動産賃貸事業が安定収益として下支え



# 市場は縮小傾向だがパッケージ系用紙は需要堅調



(日本製紙連合会資料より当社作成)



- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。





## 問合せ先

国際紙パルプ商事株式会社 IR・広報課

TEL03-3542-4169

✉investor\_relations@kppc.co.jp